

翻 訳

アドバンス・ケア・プランニング：選択肢を知らせる

藪本 知二

山口県立大学 社会福祉学部社会福祉学科

田中 愛子

山口県立大学 看護栄養学部看護学科

ADVANCE CARE PLANNING: Making Choices Known

Tomoji YABUMOTO

Department of Social Welfare, Faculty of Social Welfare, Yamaguchi Prefectural University

Aiko TANAKA

Department of Nursing, Faculty of Nursing and Nutrition,

Yamaguchi Prefectural University

要約

本稿は、ハワイ大学医学部公衆衛生科学研究科博士課程主任教授 キャサリン・L・ブラウン博士 (Dr. Kathryn L. Braun) らが作成した5冊から成るブックレット、『終末期の計画とケア』シリーズの1冊目「アドバンス・ケア・プランニング：選択肢を知らせる」を翻訳したものである。このブックレットシリーズの著作権は、ハワイ大学高齢研究センター (University of Hawai'i Center on Aging) とイミ・ハレ・ハワイ先住民がんネットワーク ('Imi Hale Native Hawaiian Cancer Network) とにある。私たちはこの5冊のブックレットの日本語への翻訳の許可を得た。

「アドバンス・ケア・プランニング：選択肢を知らせる」の目次は、医療についての事前指示、事前指示の利点、事前指示について話す、生命維持治療を理解する、あなたの願望を文書に記録する、チェックリスト、である。

このブックレットは、自分で選択することができない場合に、自分が望むケアを文書に記録するためのワークブックである。

キーワード：アドバンス・ケア・プランニング、事前指示、生命維持治療、リビングウィル、医療に関する継続的効力を有する委任状

Summary

This paper is a Japanese translation of a booklet titled Advance Care Planning: Making Choices Known, a first in the series of five titles on end-of-life planning and care. The booklets were authored by Dr. Kathryn Braun and her associates. Dr. Braun is Professor and Chair of the Public Health doctoral Program in the Department of Public Health Science at the University of Hawaii. The copyright for this series is held jointly by the University of Hawai'i Center on Aging and 'Imi Hale Native Hawaiian Cancer Network. Permission was obtained to translate them into Japanese.

The contents of the present booklet are as follows: your advance directive for health care; benefits of an advance directive; talking about it; understanding life-sustaining treatments; documenting your wishes; and checklist.

The booklet is a workbook to document the kind of care you want if you are unable to make decisions for yourself.

Key Words : advance care planning, advance directive, life-sustaining treatment, living will, durable power of attorney for health care

アドバンス・ケア・プランニング： 選択肢を知らせる

目次

医療についての事前指示

事前指示の利点

事前指示について話す

生命維持治療を理解する

あなたの願望を文書に記録する

チェックリスト

誰もが自分がいる場所で愛することができる。

私たちはすべて、余すことなく、

愛を分かち合うことができる。

—ヘレン・ニアリング

アドバンス・ケア・プランニング

私たちは、いつまでも健康で、自分で意思決定をすることができると考えがちです。しかし、急病に罹ったり、突然重篤な健康状態になったり、あるいは事故に巻き込まれたりすると、自分で意思決定をすることができなくなるかもしれません。

まだ健康なうちに自分の願望を知らせることは、よい考えです。自分の医療に関する決定を他者に話すことは、確実にその決定が尊重される最善の方法です。

あなたの家族や愛する人は、あなたが事前に計画を立てていることから得るものがあるでしょう。あなたの願望を知ることで、家族や愛する人は、あなたに代わって医療上の意思決定をしなければならない場合に、負担が軽くなり、躊躇いが少なくなるでしょう。

このブックレットで、あなたは、あらかじめすることができる意思決定と、他者に望んでいることを知らせる方法とについて学ぶことになるでしょう。

計画（プラン）は役に立たないが、
計画を立てること（プランニング）は、
極めて大切なことである。

—ウインストン・チャーチル

医療についての事前指示

事前指示は、これからの治療についての書面または口頭の陳述です。事前指示は、医師、家族、その他の者に、あなたが何も言うことができなくなった場合にどのように処置してもらいたいのかを知らせてくれます。事前指示には主として2種類あり、「個人の指図」または「リビングウィル」とも呼ばれるものと、「医療に関する継続的効力を有する委任状」とがあります。医療上の意思決定について事前に計画を立てることは、確実にあなたの声が聴かれあなたの願望が尊重される最善の方法です。

事前指示であなたは次の願望を伝えることができます。

- ・医療上の治療で望むことまたは望まないこと
- ・あなたが治療に関する意思決定をすることができないときに、あなたのためにその決定をして欲しい人
- ・あなたが安楽ケア（治療が可能なきまたは可能でないときに、痛みや苦悩を軽減することに焦点を合わせるケア）のためにしたいと思うこと
- ・倫理面での指示や宗教上の指示、霊的な面での指示
- ・あなたが愛する人や、あなたに治療を提供してくれる人に知って欲しい治療の選択に関すること

事前指示の利点

■事前指示の利点は、すべきことを知るのに役立つということにあります。あなたの書面による事前指示は、家族や友人への贈り物です。あなたの願望を文書にすることによって、他者は、あなたがもはや自分で話せなくなったときに、あなたが望むことを当て推量する必要はないでしょう。家族が当て推量しなければならない場合には、あなたの願望と異なり、反対の結論を出しているかもしれません。だから

ら、医師があなたの願望を尊重することを難しくさせているのです。事前指示は、確実にあなたの願望が実行される最善の方法です。たとえあなたが現在リビングウィルを書いている、あなたが住んでいる州で将来リビングウィルに関する法が新たに制定されれば、その法は、リビングウィルについてこれまでよりも内容に広がりがあり、多くの選択肢を与えてくれるでしょう。

■医療に関する意思決定は、成り行き任せにならないでしょう。あなたは、日々、仕事や家庭、人生について選択をしています。どうして治療に関する意思決定を成り行きに任せるのですか。今が、あなたが望むケアについて決定する時です。今が、あなたの思いを伝える時です。

■事前指示の利点は、他者にあなたの価値観を知らせる点にあります。先進的な技術により、回復の望みがほとんどない、または全くない患者が、数ヶ月間、時には数年間も生存することが可能となっています。このことから、あなたは、かりに自分で意思決定をすることができなくなったら、どんなケアを望むだろうかと考え、それを話すことが、いっそう重要となっています。前述の医療についての事前指示で示した5つの願望に関して記録することは、あなたが家族と語り合うきっかけに相応しいものとなります。情報をもっと得たい場合は、www.agingwithdignity.org^{注1)}を参照のこと。

事前指示について話す

■今、事前指示について話すことは、あなたが親密な人に与える贈り物です。あなたが病気になる、もはや自分では話せなくなったときに、事前指示は、親密な人があなたの個別的指示を実行したり、あるいはあなたが望むと思われる決定をするのに役立つでしょう。事前指示をしないで死亡した人の家族は、自分は、決定を下すために奮闘し、正しいことをしているのだろうかといつも迷っていた、と言うものです。

運命とは偶然の問題ではなく、選択の問題である。

運命とは待っているものではなく、

勝ち取られるものである。

—ウィリアム・ジェニングズ・ブライアン

■あなたが知っている人の例を出すこと。多くの人は、中には医師も含まれますが、終末期のケアについて話すことを不愉快に思っています。あなたは、誰かの経験について話すことから始めて、終末期の

ケアについて話題にすることができます。例えば、あなたは、次のように尋ねてみてください。

・隣の人が死ぬ前に入院していたときのことを覚えている？隣の人が受けていた治療についてどう思う？

その後で、あなたがこの状態にあるとしたら、何をして欲しいのかと尋ねてください。あるいは、家族に何をしたいのかを尋ねてください。こうしたことが自分に起こったら、確実に自分の願望を尊重してくれるために、家族または愛する人の助けを得てください。また、医師と気がかりなことや願望について検討することも重要です。

■援助を得る。時には、あなたには、家族と終末期について話し始めるために、友人またはカウンセラー、ソーシャルワーカー、聖職者といった人の援助が必要な場合があります。援助の経験がある、あらゆる職種の人々や宗教集団があります。

あなたの心を声にしよう。

あなたが愛する人と共に人生を賛美しよう。

生命維持治療を理解する

以下は、終末期の状態にあって延命または生命維持をするために用いられるいくつかの一般的な治療の例です。あなたが自分または愛する人のためにこうした治療を検討するよう求められることがあるかもしれないので、こうした治療に詳しくなることは、望ましいことです。

いつも、すべての手術その他の治療のリスクと利点を医師と検討してください。

■栄養（食物）と水分補給（流動物） 事前指示には普通、生命維持治療、例えば人工栄養（食物）や水分補給（流動物）を実施または中止する指示が含まれます。人は、終末期の状態にあるとき、一般的に、人工栄養や水分補給を受けるものですが、この延命手段を行わないと言明している場合は別です。

死に近づくときや空腹でないときに、食物を強いることは、痛みを増したり、窒息（誤嚥）の原因となったり、状態をより悪くしたりする可能性があります。また、流動物を強いることは、状態を悪化させるかもしれません。この時の静脈内点滴（IVs）でさえ、合併症、例えば浮腫や鬱血性心不全の原因となり得るのです。

■**輸血** これには全血または血液製剤が含まれます。全血は望まないけれど、血漿は受け入れる人がいます。この時期の輸血は、もはや終末期の病状にある人の生活の質を改善しません。

■**手術** 手術が検討される前に、手術のリスクと利点とを理解しておくべきです。その手術は、安楽を与え苦痛を軽減するものなののでしょうか、あるいは単に延命するに過ぎないものなののでしょうか。終末期の状態にあっては、痛みを減らし安楽を増すために実施され、病気を治すことを意味しない外科的処置があります。そうした外科的処置以外に、安楽を増し痛みを減らすことができあまり侵襲的でない処置があるのでしょうか。

■**心肺蘇生術（CPR）** 心臓麻痺、それは心停止としても知られているものですが、これになると普通、「病院内の救急治療班に対する指令」が出され、心肺蘇生術（CPR）が開始されます。電気衝撃で心臓を復活させる試みがなされ、心臓を正常なリズムに戻そうと努力して手による圧迫が胸部に加えられます。回復するか死に向かうかの医療上の危機的状態には、CPR は、命を救うのに役立つでしょう。しかしながら、終末期にある病気または余命が限られている人には、CPR は、ほとんど役に立ちません。病院または医療施設では、蘇生しないとの書面による命令がなければ、CPR は、行われるでしょう。心停止が起き、911 がコールされると、CPR は、一般的には開始されるのです。ただし、心停止した人が「安楽ケアだけ、蘇生させない」の腕輪またはネックレスを装着している場合、または蘇生を望まないことを示す、すなわち自然死に任せる「生命維持治療についての医師の指示（POLST）」書を所持している場合は、別です。CPR を受ける人は、多くの場合、人工呼吸装置、つまり呼吸器が装着されます。

■**人工呼吸** 延命したいがもはや自力で呼吸することができない人は、「通気孔がつけられる」かまたは人工呼吸装置が装着されます。この装置は、強制的に空気を肺に送り込んで、延命したいが自力では呼吸することができない人に呼吸させる機器です。救急事態、例えば心停止では、人工呼吸は、常識です。「脳死」者は、もはや自力で呼吸することができませんが、人工呼吸をすれば肉体的には生き続けることができます。人工呼吸は、いったん始まると、それをやめることは、通常、家族にとっては難しい決定です。というのも死の責任を感じるからなのです。確実なことは、今のところ、死に逝く過程は、人工呼吸をしなければ、その自然な経過が辿れるということです。

■**抗生物質** 抗生物質は、現代医学の基礎となっています。抗生物質は、多くの個々の感染症を治療するために、投与するのが常識となっています。しかしながら、抗生物質の使用は、終末期の状態にあっては慎重に検討されるべきです。例えば、肺炎は、「老人の友」と呼ばれていたものでした。今日では、肺炎は、効果的に治療することができます。死に近づいている場合、抗生物質の使用は、なすべき最善のことでしょうか。人生の終わりに近づいている人には、感染症の症状は、抗生物質を使用しないで、効果的に管理することができるのです。

あなたの願望を文書に記録する

重篤な病気になっている場合、あなたが望む（または望まない）ケアについて考え、それについて、愛する人やあなたの治療に関わる人と話しましょう。

あなたの治療に関する口頭の（語られた）指示が合法的であるとみなされるとしても、あなたの願望を事前指示で書き留めること、および「生命維持治療についての医師の指示（POLST）」書を医師と完成させること、またはそのいずれかを行うことが最善です。これらの文書は、いくつかの州で使うことができます。たとえ口頭の（語られた）指示が州によっては事前指示とは見なされなくても、また、医療に関する継続的効力を有する委任状を取り決めるために用いることができなくとも、最も頻繁に使われている POLST 書式は、事前指示の要約書です。生命維持治療についての意思決定や情報となるのです。POLST 書式によって、その情報や表明された願望が、医師とあなた、またはあなたの治療に関する代理人もしくは代行者とが署名した医師の指示になるのです。情報をもっと得たい場合は、www.ohsu.edu/polst/^{注2)}を参照のこと。

合衆国では、どの州にも事前指示の作成方法について定めた法があります。また、これらの法は、医師と医療を行う施設に事前指示を尊重するように要求しています。

事前指示の書式は、多くの場合、医療を行う者かまたは地方法律扶助協会から入手することができます。また、事前指示の書式は、インターネットでも入手することができます。

州独自の書式は、www.caringinfo.org^{注3)} (1-800-989-9455) からダウンロードすることができます。5つの願望に関する証書は、www.ohsu.edu/polst/

agingwithdignity.org から購入することができます。大多数の事前指示は、あなたが次の質問に対する答えを文章にするようになっています。

1. もはや自分では意思決定をすることができず、回復の見込みがほとんどまたは全くない場合に、どんな種類のケアを望みますか。

あなたは、無制限に延命を望むのか否か、自分で食べることができない場合に、チューブを通じで栄養を摂るのを望むかどうか、痛みの治療を望むかどうかについて具体的に述べるすることができます。この情報は、「リビングウィル」や「医療に関する継続的効力を有する委任状」を含む、医療に関する事前指示についての資料提供となりうるものです。

A. 延命する、または延命しない選択

___はい、私は、私の状態に応じた、一般的な医療水準の範囲内で、できる限り延命することを望みます。

または

___いいえ、私は、次のいずれかの場合には、延命されることを望みません。

- (i) 比較的短い時間内に死んでしまう不治で不可逆な状態にある場合
- (ii) 意識不明になって、合理的に判断して、医療上確実に意識を取り戻せない場合
- (iii) 治療のリスクと負担とが、期待される利点に勝っていると思われる場合

B. 胃または静脈への人工栄養と水分補給（食物と流動物）

___はい、私は、人工栄養と水分補給とを望みます。

または

___いいえ、私は、人工栄養も水分補給も望みません。

C. 痛みの軽減

[] この枠をマークすると、たとえ死を早めても、痛みまたは不快を軽減する治療が私に行われることを指示します。

2. 自分で意思決定をすることができない場合に、あなたのために意思決定をするのは、誰でしょうか。

あなたは、自分で治療決定をすることができない場合に、あなたのために治療決定をするための「代理人」として誰かを具体的に述べるすることができます。このタイプの指示は、たいていの州で「医療に関する継続的効力を有する委任状」と呼ばれています。あなたの代理人には、あなたの配偶者、成人している子ども、友人、その他の信頼する人はなれますが、ほとんどの法域では、あなたがケアを受けている医療を行う施設の被雇用者はなれません（ただし、血縁または姻縁によりあなたと親族関係があるときは、別です）。

私の代理人として任務を果たしてもらえそうな人は、次のとおりです。

氏名	関係
氏名	関係

3. 死後、臓器や組織の提供を望みますか、それとも望みませんか。

18歳以上の人は、臓器と組織の提供者になれます。18歳未満の人は、親の同意が必要です。ドナーカードと追加情報は、www.organdonor.org.gov^{注4)} からか 1-800-DONORS-1 に電話することによって得られます。

たいていの州では、あなたは、運転免許証に臓器提供者であるかどうかを示すことができます。あなたが意思決定を事前指示に示すことができる州もあります。www.donatelife.net^{注5)} でこれ以上の情報が分かります。

見本 家族への通知カード

私は、あなたにこのカードを、あなたに臓器および組織の提供者となる私の意思決定を知らせるために与えます。私は、私の意思決定への支援に対して、あなたに前もって感謝をします。

私は、次のものを提供したいと思います。
 ___必要とされる臓器と人体の組織のすべて
 ___次の臓器と組織のみ

署名： _____

4. 献体することを望みますか、それとも望みませんか。

献体をすることができる州があります。あなたが住んでいる州の献体のルールについては、www.med.ufl.edu/anatbd/usprograms.html^{注6)}を参照のこと。

5. 事前指示は、公証される必要がありますか、それとも必要がありませんか。

あなたが住んでいる州によっては、事前指示に当たり、証人による立ち会いがあること、または公証人による公証があること、またはその両方が要求されることがあります。証人は、代理人のリストに挙げられた人と同じであってはいけません。普通、証人のうち少なくとも一人は、血縁、婚姻または養子縁組による親族関係がない者でなければいけません。

私の事前指示に立ち会う人は、次のとおりです。

氏名	関係
----	----

氏名	関係
----	----

事前指示を作成したら、その写しを家族や医師、聖職者または寺院の指導者に渡しましょう。入院するときは、その写しを持って行きましょう。写しは貸金庫に入れてはいけません。というのも、写しが発見されても、遅すぎて役に立たない場合があるからです。

私が事前指示を知らせる人は、次のとおりです。

家族： _____

医師： _____

弁護士： _____

教会 / 寺院： _____

チェックリスト

配偶者や成人している子ども、家族、友人、霊的

助言者、医師と、あなたにとって重要なケアについて話す。

信頼する人にあなたの治療に関する代理人になることを頼む。この人とあなたの願望を検討する。

事前指示を作成する。州独自の事前指示に関する文書や命令は、www.partnershipforcaring.org/^{注7)}を参照すると、無料でダウンロードすることができる。印刷した文書一式は、1-800-989-9455 に電話して10ドルで取り寄せることができる。

事前指示を法的に成立させる。あなたが住んでいる州の証人および署名に関する要件に従わなければならない。すべての州で事前指示に日付を入れることが要求されている。すべての州で、あなたの署名が血縁、婚姻または養子縁組による親族関係のない少なくとも一人の成人による立ち会いが要求されている。州によっては、二人の証人が要求されている。また、事前指示は、公証人による公証がなければならない。大多数の州では、あなたには事前指示をいつでも口頭または書面で撤回または変更をする権利が与えられている。

事前指示をしていることを家族や友人、医師に話す。これらの人たちにあなたの現在の願望について知ってもらう。

事前指示の写しを、あなたの診療記録を書く医師に渡す。また、その写しを家族、親密な友人、霊的助言者、その他あなたのケアに関わるかもしれない人にも渡す。

事前指示を定期的に見直す。あなたの状態が変わることがあるので、毎年、事前指示を見直すことは、よい考えである。事前指示を新しくすると、古い事前指示は、もはや法的効力を有しない。あなたの願望を変えた場合には、周囲の人に変えたことを知らせる。医師が診療記録に新しい事前指示の写しを入れるのを確認する。

写しは、あなたの家の簡単に見つけられる場所に保管する。写しを貸金庫に置かない。写しがある場所を人に知らせる。

臓器提供者カードを携行するか、あるいは、臓器提供者であることを運転免許証に示す。ドナーカードは、www.organdonor.gov を参照するか、または1-800-DONORS-1 に電話して手に入れることができる。

□ 献体をしたい場合は、家族に話して、前もって必要な書類に記入する。

真の愛は、押しつぶされるような感情ではない。
それは、現実に関わって、
考え抜いて得た決断なのである。

—M. スコット・ベック

訳者あとがき

(1) 著者について

著者のキャサリン・L. ブラウン博士 (Dr. Kathryn L. Braun) は、ハワイ大学医学部公衆衛生科学研究科博士課程の主任教授であるとともに、社会福祉学部の教授でもある。教育面では、主として医療格差や公衆衛生学に関する講義を担当されており、研究面では、がんや老年学に関する地域密着参加型調査研究をおこなっている。また、ハワイ先住民がんネットワークであるイミ・ハレ Imi Hale (アメリカ合衆国の国立がん研究所からパパ・オラ・ロカヒ Papa Ola Lokahi (ハワイ先住民保健機関) への助成を通して資金援助を受けている組織) の共同代表調査者および研究部長でもあり、ハワイ先住民出身者の研究のスキルを高めるための指導にあたっている。

ブラウン博士は、アジア太平洋地域アクティブエイジングコンソーシアムの会長として、日本、韓国、中国、インドネシア、モンゴル、シンガポール、その他の国々の老年学者との研究を通して、国際的に活躍している。

(2) アドバンス・ケア・プランニングについて

このブックレットのタイトル、「Advance Care Planning」は、日本語に翻訳することが難しく、「アドバンス・ケア・プランニング」のように片仮名表記されたり、英単語の頭文字をとって「エーシーピー」(ACP) というように表記されることもある。アドバンス・ケア・プランニングとは「今後の治療・療養について患者と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスのことで、患者が望めば、家族や友人とともに行われる。患者が同意し、話し合いの結果が記述され、定期的に見直され、ケアに携わるキーパーソンとされる人たちの間で共有されることが望ましい。アドバンス・ケア・プランニングの話し合いの内容には、患者本人の気がかりや意向、患者の価値観やケアの目標、病状や予後の理解、有益で受けることの可能な治療や療養に関する好みや希望が含まれる¹⁾。」このような意味で、Advance

Care Planning という言葉が用いられているので、「事前ケア計画」と訳すと、話し合った結果できた計画という意味に解され、話し合いの過程が脱落することを恐れて、ここではアドバンス・ケア・プランニングと片仮名で表記した。

アドバンス・ケア・プランニングは、単にアドバンス・ディレクティブ(事前指示)の文書を作成することを目指すのではなく、「患者が治療を受けながら、将来もし自分に意思決定能力がなくなっても、自分が語ったことや、書き残したもから自分の意思が尊重され、医療スタッフや家族が、自分にとって最善の医療を選択してくれるだろうと患者が思えるようなケアを提供すること」を目指すものとも言われている²⁾。アドバンス・ケア・プランニングの利点は、「本人がまだ自分で決めることが出来るうちに、自分の願望に則して、心の平穏を保ちながら、大切な人々の負担を減らし、家族の平和を保つようにケアプランを決めることが出来ること」にあり³⁾、終末期医療の中で注目されている。

アドバンス・ディレクティブは、文中では「事前指示」と訳したが、自分で意思表示ができなくなった際に、自分に行われる治療について、あらかじめ希望や要望を口頭または文書で示すことをいう。事前指示を文書で表したのものには、大別するとリビングウィルと医療に関する継続的効力を有する委任状との2種類がある。リビングウィルは、医療に関する指示や希望をあらかじめ表明した文書で、医療に関する継続的効力を有する委任状は、ある人(本人)が決断を下すことができない状態に陥った場合に本人の代わりに決断を下す人(代理人)を指名するための文書である。なお、「生命維持治療についての医師の指示(POLST)」書は、本人の事前指示に基づいて医師によって作成されるものである。

このブックレットは、本人が自分の望む医療について、家族・友人や医療者に知らせることを勧めている。「あなたの願望を知ること、家族や愛する人は、あなたに代わって医療上の意思決定をしなければならない場合に、負担が軽くなり、躊躇いが少なくなるでしょう。」と語りかける。

日本において、「エンディングノート」の普及や「終活」という言葉とともに、自分の死について語り合う文化が育ってきたように思われる。回復の見込みがない時にはどのような治療を受けたいか、人生の終わりまでにやっておきたいことは何か等々が、具体的に語られるようになってきた。それでも多くの場合、一旦病の床に伏すと、周囲の人は、気遣いからか、大切な価値観や受けたい医療について話し合うことに抵抗感をもつものである。なかには、そのことに触れないままに、本人の意思も不明確なままに、積極的治療の流れに沿った後、死を迎えること

も多く、遺された人はこれでよかったのだろうかと思問することになる。遺された人の後悔を最小限にするためにも、自分自身の人生を自分らしく完成していくためにも、物事を十分に考えることができるうちに、最期の医療選択や希望することなどを明確に文書にしておくことが必要なのではなかろうか。

このブックレットは実用的にできており、チェックリストの各項目をチェックすることで、アドバンス・ケア・プランニングになるように作られている。また、空欄に直接書き込みができるようになっていて、あなたの意思を簡潔に記述することができる。参考になれば幸いである。

死を考えることは、今生きているこの時や、今まで生きてきた人生を見つめ直す機会になるのかもしれない。そんなことを考えながら、このブックレットを訳させていただいた。

訳注

- 注1) 「Aging with Dignity」のホームページ。
- 注2) 「POLST」のホームページ。
- 注3) 「Caring Connections」のホームページ。
- 注4) アメリカ合衆国保健福祉省の臓器提供に関する普及・啓蒙のページ。
- 注5) 臓器提供に関する普及や啓蒙を目的とする「Donate Life America」のホームページ。
- 注6) アメリカ合衆国の州ごとの献体に関する問い合わせ先。
- 注7) 「Partnership for caring」のホームページ。

訳者あとがき注

- 1) Advance Care Planning: A Guide for Health and Social Care Staff <http://www.ncpc.org.uk/sites/default/files/AdvanceCarePlanning.pdf> (2014年12月18日アクセス) を翻訳して引用。
- 2) 国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部 <http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/eol/ad/3acp.html> (2014年12月18日アクセス) から引用。
- 3) 日本臨床倫理学会 http://www.j-ethics.jp/topic_2_2_3.htm (2014年12月18日アクセス) から引用。